

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「 尊い命を守るためには 」

東京都 多摩市立北諏訪小学校 6年 ^{にしかわ}西川 ^{みか}実花

土砂災害は、私達の生命を危険にさらす。私達が暮らす周囲の環境には、その危険があふれている。思っていたより、とても身近なものなのだ。

私は4年生の時、学校の授業で土砂災害について学び、発表する機会があった。そこで私は、広島土砂災害を例に挙げ、自分の住む街と比べ、「安心安全な街」について検討した。広島土砂災害は雨により、崩れた土砂が大量に住宅街へ流れ込み、多くの家と多くの命をうばった。そもそもの地形が問題なのか対策の遅れなのか、避難のタイミングが問題なのか、連日テレビのニュースで討論されていた。そして、大切な人を失い、悲しんでいる人々の姿も見られた。私の胸も締め付けられるように苦しかった。これが、私が最初に土砂災害問題と向き合った原点である。

そして、6年生になった私は、突然、土砂災害問題と再び向き合うことになった。家の近くの場所が土砂災害(特別)警戒区域に指定されてしまったのだ。そこで住民説明会が行われた。席は満席。椅子が足りないほどだった。ここ数年の土砂災害の多さで、住民も多くの疑問を抱えたようだ。配布された資料と説明を聞いても、十分に納得してはいないようだった。配布された資料は、子どもにも伝わるように理解しやすく作られていた。あの怖い土砂災害が身近で起こりうると思うと、背筋がゾクッとする。

今、日本は土砂災害によって危険にさらされている。復興しても、また翌月の雨や翌年の雨で被害が出る。暮らしに与える影響は大きい。だからと言って、全く災害の無い場所へ引っ越すのも難しい。私達は、自分の住んでいる場所がどんな特徴をもつ場所なのかを知っておくべきだ。そして、実際に被害にあわれた方々が見逃してしまったサインを覚えておきたい。例えば、「川の水がにごっていた」「土のにおいが強くなった」などだ。家を失う事も、財産を失う事も、日常の平和な暮らしを失う事も、どれも悲しく辛いことだ。その中で、一番考えなければならない事は、尊い人命をいかにして守れるか、という点だ。

小さい頃は、土砂災害などの恐怖や恐れをもたらすものが身近にあるなんて思いもよらなかった。土砂災害は、いつ、どこで起こるか分からない。これが一番の怖さなのだ。自分がいる場所は安全なのか、いつ、どこへ逃げれば良いのか知っておくべきだ。私達は、自分がとるべき行動は何かを考える必要がある。

幸運にも、命が失われる程の土砂災害は、私の周りでは起きた事がまだ一度もない。だからこそ、いつもより冷静な行動が必要となる。特に、自分だけは大丈夫、という大人の経験値をもとにした考えは危険だ。周囲の忠告、国や県、市町村、天気ニュースなどで呼びかけている注意や勧告、命令には耳を傾けるべきだ。正しい情報と行動が命を守るからだ。

では、私達子どもは、どんなことができるだろうか。子どもだって防災や避難について、学校で大人よりも多くのことを学んでいるはずだ。一番守りたいのは人の命。逃げ遅れて大切な命を失うのは悲しい。私達子どもも、大人へ呼びかけることができるはずだ。

「早めに避難しようよ。」と。

暗くなり、風雨が強くなってからの避難はとても危険だ。小さな子ども、足腰の弱いお年寄りには、時間がかかる。安全な避難を面倒と思えば危険はすぐ横にいる、きっと、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さんも、お母さんも、子どもの「私」を大事に思う人達、「私」の未来を大事に思っている人達ならこの声を聞いてくれるはず。全員の命を守りたいと思うこの気持ちに応えてくれるはずだ。

積極的に「自分」ができる行動を探して、たくさんの命を守りたい。こうして土砂災害の被害を防止したいと思った。